



## ベーツ街道をゆく！



池田裕子(学院史編纂室)

8月23日から9月4日まで、C. J. L. ベーツ第4代院長に関する調査と資料収集のためカナダを訪れ、モントリオールとトロントを基点に関係地を巡りました。顧みると、これまでの調査は紙資料の収集に重点が置かれていたようです。今回は、モントリオール在住のご令孫アルマン・デメストラルさん、チャールズ・デメストラルさんご兄弟（ベーツの娘ルルの長男と次男）の協力を得て、ベーツ院長の故郷からお墓まで実際に訪ね歩くことができました。駆け足の10日間でしたが、オタワ川、セントローレンス川、リドー運河（キングストンとオタワを結ぶ全長202キロの運河。水門を開閉し川の高さを調節して船を進ませる仕組み。英米戦争後、防衛のために造られたそうです）沿いの村や街の佇まいは息を飲む美しさで、ベーツ院長の絵心はこのような地で生まれたのかと大いに納得させられました。道中、アルマンさんとチャールズさんからお祖父様やお母様の思い出話をうかがい、こちらからは、関西学院に残る資料のことなどお話ししました。

ご兄弟と別れ、モントリオールからトロントまで列車で移動し、ベーツ院長の葬儀が執り行われた教会を訪ねました。会堂には鍵がかかっていましたが、呼び鈴を押すと、たまたま用があつて中におられた教会員が親切に私を招き入れてくださいました。壁に飾られた晩年のベーツ院長の写真を前に、「ベーツ牧師？ よく覚えてますよ」と言われた時の感動をどう表現したらいいでしょうか。

カナダ東部の主だったベーツ院長関係地は次の通りです。詳細については、改めてご報告したいと考えています。

今回の訪問地

### ロリニャル L'Orignal

フランス語で「ムース」（次頁マップの写真参照）を意味するこの村でベーツ家の長男として誕生(1877)。父レヴァーは御影石と大理石を扱う商売をしていた。今も住民の8割はフランス系。ヴァンクリーク・ヒル Vankleek Hill

下宿して高校時代を過ごした村。19世紀に建てられたソフトな色合いが特徴の赤レンガ造りの建物が数多く残る。

### モントリオール Montreal

3年間学んだマギル大学(1894-97)がある。この他にも、ウェスレアン神学校(1901-02)、牧師を務めたドーチェスター通りメソヂスト教会(1901-02)があった。

### サンタンドベルヴュ Sainte Anne de Bellevue

“Mastery for Service”をカレッジ・モットーとするマギル大学マクドナルドカレッジがある。

### ブラインド・リヴァー Blind River

牧師補として最初の任地(1897-98)。

### ポーツマス Portsmouth

牧師補として2番目の任地(1898-1901)。

### キングストン Kingston

MAを取得したクィーンズ大学(1898-1901)がある。

### モーリスバーグ Morrisburg

妻ハティの父の司式により、ここのメソヂスト教会で挙式(1902)。

### オタワ Ottawa

ドミニオン・メソヂスト教会で牧師としての按手を受けた(1901)。

関西学院から院長選出の電報を受けた(1920)地でもある。両親が隠退後暮らしていた。

### トロント Toronto

中国伝道を決意した(1902)マッセイ・ホール（ジャズ・ファンには有名かも？）、葬儀(1963)が執り行われたロイヤル・ヨーク・ロード合同教会がある。

### イーストonz・コーナー Easton's Corners

ベーツ家の故郷。アイルランド移民である祖父ナサニエルが農場を営んでいた。

### ウォルフオード Wolford

ベーツ家の墓地がある。ベーツは希望通り母と妻の間に眠っている。



墓地にて（チャールズさん、アルマンさん）

◆◆◆ ベーツ街道マップ (カナダ東部) ◆◆◆



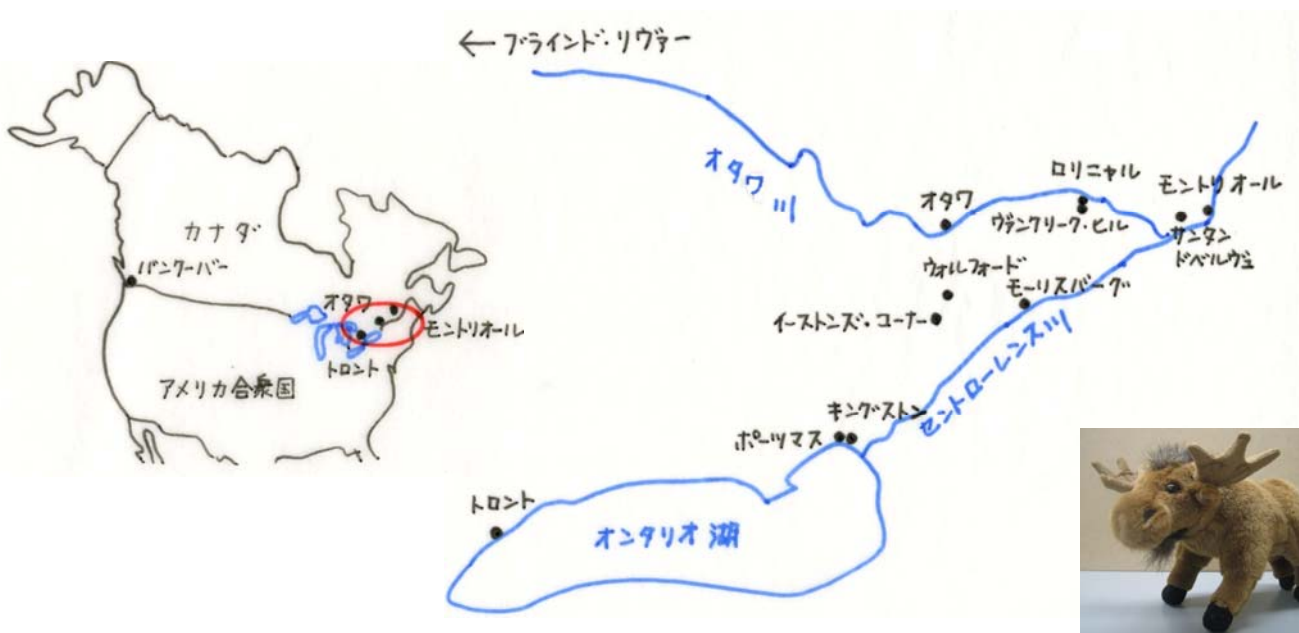
ベーツ家の故郷イーストonz・コーナー



ベーツが眠るウォルフオード墓地



ロリニヤル村入口



ロイヤル・ヨーク・ロード合同教会



マッセイ・ホール



マギル大学 (ベーツが学んだ校舎)

学院史編纂室便り No.36 (2012年11月1日)  
 関西学院 学院史編纂室  
 〒662-8501 西宮市上ケ原一番町1-155  
 TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462  
<http://www.kwansei.ac.jp/gakuinshi/ARCHIVES.htm>